



自立活動だより



自立活動部
R3年10月号
第3号

今号では、平松先生を講師としてお招きした自立活動研修を基に、「スヌーズレン」についてお伝えします。
※詳細はHPに掲載しています。

大阪府立東淀川支援学校 総括実習助手 平松小百合先生

- 長年支援学校に勤務し、スヌーズレン教育や自作教材の活用についての実践を積極的に取り入れた自立活動を行う。
- 児童生徒の感覚を刺激するスヌーズレン教材の研究・製作について、取り組みを進めている。
- 令和3年度第2回自立活動研修において、「重度重複障がい・知的障がいのある児童生徒におけるスヌーズレンの活用方法について」「手作り教材の紹介」の2つのテーマで自立活動研修を開催。

「スヌーズレンとは」

対象者のニーズに応じて、視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚などを適度に刺激する、人工的な多重感覚環境を部屋や教室などに創出し、対象者と介助者(または指導者)と環境の三者間の相互作用により、主体性や相互の共感性を重視して、余暇活動を促し、障害などの改善や回復・克服をめざす。加えて心身の発達を促し支援する活動である。対象者のニーズに合わせた環境設定を取り入れることで、内発的・自発的活動を促進することができる。さらに、子どもの心身の発達を促し支援する教育として、さまざまな利用の仕方がある。

「スヌーズレン教育とは」

対象児の好む光や音(音楽)、香りなどの感覚刺激を用いた多重感覚空間を設定する。感覚刺激を媒体とし、教師と対象児、または対象児同士が相互に共感し合い、心地よさや幸福感をもたらす。対象児の持つ、教育的ニーズのある感覚面、情緒面、運動面、コミュニケーション面などにおける心身の発達を促し、支援する教育活動である。

手順

- ①対象児の実態を把握し目標を決める。
- ②好むものから始め、感覚を重ねていく。
例) 光(視) → 光+匂い(嗅) → 光+匂い+音(聴)
- ③記録をとり、様子の変化を見る。
★対象児の記録とともに、教師の支援の変化も記録する。
例) 臥位を座位にした。光を赤色から黄色にした。
- ④変化の理由を考える。
- ⑤記録をまとめ、今後に活かす。

◆大切なこと◆

「感覚」は感じ方(感受さ)が違います。一人ひとりに合った環境設定を行い、児童生徒の表出や小さな変化に気づくことが、次の成長に繋がります。

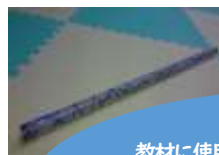
教師も環境の一つです。言葉かけ等意識しましょう♪

手作り教材について

ポイント

- ①安全であるもの
・握る、投げる等どのように遊んでほしいか、どのように遊ぶかを想像して作る。
- ②感覚を刺激するもの
・感覚のどこを刺激したいのかを考える。
・1つの感覚でも様々な種類がある。
例) 聴覚: 実物の音、録音の音、初めて聴く音楽、好きな音楽等
- ③操作性のあるもの
・触る、揺らす等、児童生徒の興味関心を引き、自発的に行動することで変化する環境を楽しむもの。

レインスティック



カラフルゼリー



教材に使用するものは、廃材(空き容器)や100均で購入できるものです！
授業等で児童生徒と一緒に作るのもあり！

書籍紹介

- ①『スヌーズレンの理論と実践方法』 姉崎弘 大学教育出版 2019
- ②『スヌーズレンを利用しよう 資格がなくても簡単にできる』 河本佳子 新評論 2016

参考文献・資料

- ①令和3年度第2回自立活動研修資料 講師: 平松小百合先生
- ②『スヌーズレンの理論と実践方法 -スヌーズレン実践入門-』 姉崎弘監修 大学教育出版 2019
- ③HP「ISNA 日本スヌーズレン総合研究所」

